

日刊 磐城時報

編輯部 石城郡平野町新築町十四
印刷部 石城郡平野町新築町十四
電話 磐城 二一四
代印 磐城 二一四
代印 磐城 二一四
代印 磐城 二一四

南町と立町で 學校敷地爭奪戰

十日その火蓋は切らる 十三日は新築委員會

平町に於て豫算二十四萬圓を大和家に於て大森、萩原兩町議 校に昭和三年度から二ヶ年間繼續 區長、組長外數十名會合し協議 續事業として新築する事になつた結果南町裏は既に確定的の適 於て新築委員として青沼登太郎を敷地とすべく運動する申し合 外十名を擧げ來る十三日第一回をなし實行委員として酒井國 委員會を開いて協議を遂げる 三郎外二十一名をあげた。十日 管で敷地も近く決定するわけに には午前八時委員は敷地調査を 設する事は勿論であるが、その 交渉を開始したが、之について 敷地候補地としては立町裏並に 識者は 南町裏の二箇所あり立町方面の 立町裏は南町裏に比べ土地價 關係七ヶ町では立町裏を敷地と 格は安いかも知れぬが、埋立 するたため過般期同盟會を組織 てる上に於て南町裏は非常に して猛運動を起してゐるが、又 便利で低廉に出来る」 南町では九日午後六時から同町と詰つてゐる。

聯合青年總會 會場割れんばかりの盛況

會衆實に一千二百名

石城郡第三方面、夏井、櫻間、直治氏開辭を述べ次いで石城郡 飯野、高久、好間、神谷、平窪、聯合青年團長唐土齊治氏の告辭 赤井、小川、内郷、川前一町十 あり、團員の演説に入り 一ヶ村聯合青年團總會は十日陸 軍紀念日を卜し午前九時半から 平町平劇場を開いたが定刻會衆 の獨立性について平窪江尻仲

事慶報の如くであるが、三丁目 の敷地及び建物は同町小野伊佐 治外二十三氏の共同組合の所有 物で同組合では郵便局が移轉さ れた後土地二百坪と建物を全部 賣却する事になつた。

三名の解雇から 藤原炭礦不穩

警務係の暴行が因で 争議を起す計劃

磐崎村大字藤原三井炭礦藤原坑に於て 警務係の暴行が因で、三名の解雇から、藤原炭礦の不穩を起す計劃が起すことになつた。

貯金と保險 日曜でも取扱ふ

本月十一日より十七日迄の一週 間は第九回勸業奨励協同期間に 付十一日の日曜日は公衆の便 及び郵便金の受入及契約事務を 取扱ふ。

郵便局の 敷地と建物 賣却する

現在の平郵便局は明年度に於て 平町四丁目目新築移轉する可き 取扱ふ。

大瀧發電所問題 解決案に對する批判

大正十三年四月以來過去四年 に亘り幾多犠牲者を出し平町 有史以來の大紛亂を重ねたる 大瀧發電所問題も去る八日全 く解決した事は吾々町民とし て安堵の胸をなでた。先年某 氏の考へられた未だの協定條件 業側は、平町にとつても、企 業側は、平町にとつても、五 分の和議に相違はないとして、 少々物足りぬ感じがする のである、即ち自分勝手の様

児童保護者會 豫算協議

平町第一、第二兩校児童保護者 會評議員會は十二日午後二時平 第二校に開き過般理事會で協議 した昭和三年度豫算を附議する

紺屋町區會 平町紺屋 町では十日午後二時から炭屋旅 館に於て區の規則制定委員會を 開く。

平町紺屋町區會は十日午後二時から炭屋旅 館に於て區の規則制定委員會を 開く。

鯨を捕獲 三十六尺の

ある水を、一、まじ金のかけた 水を只本流にふく投げる。と はなんぞいたたましうる電 すれば約三百キロワットとい かの電力を供給する。今 回の分水を懸ければ對岸に鐵 橋を懸けて架空鐵管で送水す る。そして現在設置の鐵 管と連絡をつける。か全くや やこしい仕事の様に考へられ 無益の事と思はれる。先年某 氏の主張された貫水と云ふ事 は研究會の案と比較するに今 度の方が其成じがする様であ る。水路の共有權もな 水車で一度使つた放水を取る ので、研究會の案第五項の 若干金の寄附要求内容を仄聞 するに、金額の五萬圓也で交 渉の結果金額五萬圓を承諾さ れた油混入の水と云ふ説から 考へればむしろ水槽の分水の 方がはるかに増したと考へられ しい事をしたと思ふ。

新川柳 新島 生

外套を重たく歩く春の風 飯時を子の歸らない暖かさ 親方の咳に焚火の輪が崩れ 女房の留守手袋を焚き出し 食堂へ小さく掛ける新社員 病上り此度の試験あきらめる 早引を黙認、れる病上り 前座まだ稽古がはら汗を拭 牛鍋を飲むことにする雪櫃の 鍋屋屋業の窓で荷を仕舞ひ 要するに結果に於て永久安全 に所要水量を得られ成る可く 費用を減せしめて貰ひ度いの は誰でも望むのである。出来 得れば町の一分子たる企業者 側にも利せしむるのも共存共 營の意味に於ても誠に結構の 事でもあるし延びては地方産 業の爲め國家の爲めともなる 業と思はれる。今回の協定 項内容を考究するに、將來を 思へば會社側對し利益のほ たもちをぶつつけたの感があ るのである。

久會社が是れをなすこと。 五、會社は平町上水道増水計 劃に對して若干金を寄附す ること。 是れを以て今回の協定條件と 比較照して考へれば、今回 の所要水量四個と限られてゐ ることは如何なるものなるや 尤も四個を必要とする事を前 途遠慮なるも人口數より見れ ば只今の約三倍なるも、より 多く取り得る様約束したに越 した事はないと思ふ。 今回の分水は發電所放水より 分水する様だがそれは研究會 の主張と變りはない、只位置 に於て高き差があるのみであ る。しかも今回の分水を通 した水なれば先年某氏の言は れた油混入の水と云ふ説から 考へればむしろ水槽の分水の 方がはるかに増したと考へられ しい事をしたと思ふ。

平商校卒業式

優等は吉野、根本兩君
平商業學校第八回卒業式は十二日午前十時から舉行の筈で優等生其他並に卒業生氏名左の如し

- ▲卒業生(イロハ順) 石黒光男、伊藤幸平、早川庄喜、星敏太郎、邊見惣藏、豊田佐平、大西一雄、大川傳、大森三郎、大井川一雄、大和田俊治、小野武雄、小野長藏、渡邊勝義、若松長治、加藤末吉、吉野一美、吉田繁男、出口亮式、館内清、田中淺男、高萩忠衛、根本融、中村直一、野木武一、野口武男、黒澤泰三、山野邊豊長、山田均、藤田要、福田武雄、小林重雄、小島藤郎、植野義明、遠藤松男、阿部瑛太郎、有坂治郎、荒川一郎、佐藤一、佐藤勝久、宮本勇、志賀文夫、志賀光男、椎名秀雄、日野正男、久田隆美、眞壁勝榮、森合徳、關原司、鈴木一、鈴木信夫、鈴木武久
- ▲學業操行優良生徒 吉野一美、根本融
- ▲三學年問答勤者 大和田俊治、渡邊勝美、吉野一美、館内清、田中淺男、根本融、野口武男、椎名秀雄、鈴木一

映畫界

▼燃ゆる渦巻(一)
駒井相模守の出現により林清之助は偽名露顯し若神子山に縛り上げられた、新徴組隊士は怒り罵つた、龍巻は運は林清之助を我意に従はせんとしたが、怒りなかつた、運は怒つて林に反感を持つ様になつた、そして立歸らんとした時突然狼は群をなして運を餌食にせんとした、之れを避けた、お綾も茅野に狼になやまされたが水府公より拜領の短銃を以て追ひ拂ひ清之助を救つた。(平箱)

佛蘭西料理一拾錢均

開店三週年を記念し左記の方法に依り破格の献立を以て奉仕致します。何卒進んで文化的食物を御試食下さいませ。

方法

一、ディンナア(正餐)

十二品 金壹圓貳拾錢

一、御給仕の仕方、食べ方其他會食(宴會等列席の場合)の一般常識を御説明申上げます。
一、御試食されます料理の製法をも家庭的に一々公開御話しいたします。

洋式作法から料理製法の講習を兼ねた宴會であります。
昨年留しました國際料理試食會に御出席の方は復習の意味で未だ御経験のない方は是非御申込み下さいませ。

家庭的料理實習所

平町甜急町(縣社通り)

西洋料理

美味でイロハ食堂
電話四六〇番

咳止の
妙藥
オピール錠

藥學博士 丹波敬三先生製藥指導
醫學博士 豊島豊次郎先生動物試験
特約店 平町一丁目(電話四六二番) 大平屋藥店

入學案内

募集人員
本校第一部(従来の高等女學部と略同)二年卒業五十名、本科第二部(従来の師範部と略同)二年卒業五十名、技藝高等科(従来の技藝部高等科と略同)二年卒業五十名、技藝速成科(従来の技藝部速成科と略同)一年卒業五十名

◎學則改正 本校は従來縣知事の認可により經營し來りたれども時勢の進歩に伴ひ文部大臣の認可を得べく目下申請中につき近日中認可の見込
◎卒業生の特典 本校本科の卒業生は高等女學校と同じく官立專門學校に入學する資格を得らるゝ見込
◎入學資格 一、高等小學校卒業生又は本年三月卒業見込のもの 二、又は同等以上の學力を有するもの
◎出願手續 入學願書、履歴書に入學料を添へ本校に提出のこと 但し入學料二圓
◎出願期日 三月三十一日 學則並入學願書履歴書用紙は郵券二錢を添へ本校に請求せられたし
平町極地小路(電話四四五番) 平陽女學校

牛豚肉特價

牛	中	肉	百	金	三
上	肉	同	金	五	
口	肉	同	金	七	
豚	肉	同	金	九	
口	肉	同	金	十	
豚	肉	同	金	十	
口	肉	同	金	十	
豚	肉	同	金	十	
口	肉	同	金	十	
豚	肉	同	金	十	
口	肉	同	金	十	
豚	肉	同	金	十	

平町停車場前(平劇場入口) 深谷牛肉店 電話五二四番

紫電 外波 療器
醫學博士 丹波敬三先生製藥指導
醫學博士 豊島豊次郎先生動物試験
咳止の妙藥 オピール錠
特約店 平町一丁目(電話四六二番) 大平屋藥店

東京歌舞伎
市川壽美十郎 大一座
市川海老藏
毎夜大入厚御禮申上
替り狂言
一番目 二人奴與次郎稻荷
中幕 山門五三の桐石川五衛門
山門よりまゝ子いちめ釜入りまで
二番目 琵琶の景清
阿名屋琵琶賣のまで
毎夕四時半開演
花火打上ます

平劇場

謹啓 この度小賣部新設の紀念として試みましたユラノスケ瓶詰三日間の特價は幸ひ各位の多大なる御同情によりまして豫想外の盛況を博しまことに感謝に堪へぬ次第であります。今後は各位の御同情に酬ゆるため益々自重いたしまして、あくまで良い酒を安く廣く、生産者より直接需要家へのモットーに違ひ必ず御期待に背かぬ決心でありますから何卒御愛顧のほどを希ひ上げます。右御禮券々御挨拶まで 敬白

酒の良

製造元 永山本家小賣部 電話二〇七番

セメント 壁用材料 コールタール ペンキ塗料 板ガラス
磐城セメント株式會社 代理店 西村屋藥舖 平町二丁目 電話三番

カキ貝料理の王

出料理の王
電話一六七番